

白藍塾オリジナル

2026年度 入試小論文分析&解答のヒント

2026年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・法学部

昨年度と同じく、いわゆる「課題文を読んで書く」問題ではないが、最初に設問の前提をていねいに説明してくれているので、昨年度に比べるとずっとわかりやすい問題になっている。

設問では、「防犯カメラを積極的に利用して治安への不安をなくすべき」という意見1と、「防犯カメラの利用は慎重にして監視社会化を防ぐべき」という意見2を踏まえ、「より自由で安全な社会のあり方」について自分の考えを述べるのが求められている。「自由」と「安全」のトレードオフ問題というのは、法学部においても王道のテーマと言えるもので、しっかりと勉強してきた受験生にとっては取り組みやすいだろう。

基本的な4部構成を使って問題なく書けるはずだ。問題提起としては、ストレートに、「より自由で安全な社会」を実現するには意見1と意見2のどちらが好ましいか、を論じるのが正攻法だろう。

注意してほしいが、最初に「犯罪の数自体は一貫して減少している」とある以上、「犯罪を効果的に減らすには防犯カメラを積極的に利用すべき」などと論じても説得力はない。とはいえ、体感治安の悪化が社会不安の増大を反映しているのも事実なので、その点を軽視して論じるのも同じように説得力がない。どちらかと言うと、意見2の立場に立つほうが説得力を持たせやすいが、いずれにしても、両方の立場の正当性をしっかりと踏まえて論じる必要がある。

意見2に賛成の場合は、やはり人権の問題に焦点を当てて論じるべきだろう。説明文にも、「肖像権やプライバシーだけではなく、市民の行動を萎縮させることで、すべての自由の制限につながる危険がある」とあるが、論としては掘り下げられていないので、具体例などを交えてくわしく説明するとよい。他にも、顔画像や顔特徴データが悪用され、特定の属性を持つ人の差別や排除につながる恐れもあるので、そうした方向で論じるのもよいはずだ。

意見1に賛成の場合は、「犯罪の数が減少しているにもかかわらず、体感治安が悪化しているのはなぜか」という社会背景をまず自分なりに分析してみよう。その上で、「そうした社会不安を軽減し、人々が安心して暮らせるようにするためにも、防犯体制の強化が必要だ」ということをしっかりと説明できれば、十分説得力のある内容になる。ただし、その場合も、防犯体制の強化には人権上の懸念があることに、第2部できちんと触れておくことを忘れないようにしよう。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>